



鹿沼市認定
鹿沼の名匠

「ものづくりのまち鹿沼」を熟練の技で牽引する「鹿沼の名匠」。

鹿沼の産業や文化の振興を担うその技と心意気を紹介します。

vol.27

木製建具製造

野中建具

のなかよしき
野中 芳樹 さん(緑町1丁目)

プロフィール

昭和48年、西茂呂生まれ。国家資格である建具製作(木製建具機械加工作業)の1級技能を有し、市長表彰を受けるなど鹿沼建具商工組合発展の一躍を担っている。

家 業である建具製造を継いで34年になる野中さんは、障子や格子戸、襖などの建具を製造しています。市内の木工所での修業を経て、親方である父親からさまざまな技術を学び、平成16年には国家資格である建具製作1級技能検定に合格し、1級建具製作技能士となりました。「ここまで続けてこれたのは両親や兄弟、家族、仲間の職人さんたちのお陰です。良き出会いに恵まれ、自分は幸運だと感じています」と笑顔で振り返ります。

建 具(ここでは障子)づくりは、木材の選別から始まります。木材の平面と直角な面を削り出し、へるいをとり

ぶんげい

名前(ふりがな)・住所を明記し、はがき・メールでご応募ください。締切は毎月20日(到着分)です。
〒322-8601 今宮町1-6-88-1
メール koho@city.kanuma.lg.jp
広報広聴係(応募部門を明記)

市民俳壇

駒場 牧羊選

赤椿燃える思いや花は葉に

榎木町 上野佐喜子

杉の花忿怒の御顔仁王様

引田 斎藤 良明

子がとばす紙の飛行機春の風

上野町 竹澤 光子

障子越し雛の官女も目を細め

中栗野 大塚 初江

烏雲に動く被写体連写する

北半田 青木 久

任地へはたどり着けたか春の雪

坂田山四丁目 佐藤 宣明

大利根の溶けゆく河口春の波

万町 海原ゆう子

彼岸入母の形見の指輪して

千渡 田野井すみれ

市民歌壇

小林 夏江選

庭先に残んの梅の香灰かなりそよ吹く風が目白を誘う

旭が丘 阿部 守

「ただいま」と駆け寄る孫は笑顔にてママの似顔絵得意気に見す

下武子町 大橋千枝子

陽光を浴びて輝く菜の花に妖精のごと蝶の戯る

睦町 高村 光夫

遠き日の通学列車思い出す横揺れ激しき小湊鉄道

千渡 早藤 誠一

▶使用する主な道具



▶製造には一切妥協がない



▶腰つき画面格子戸



▲障子の製作工程

- ①ホゾ加工
- ②格子組立て
- ③仕上げ



県 外からの注文も多いという野中さん。「依頼主の思い描くものに近づけるよう、あらゆるアイデアを出し、機能性もデザイン性も損なわないように常に工夫します。半年以上かかるものもありますが、製品が完成し、依頼主に満足してもらえた時に、やりがいを感じます」と話します。

今 後の抱負をたずねると、「長く職人を続けてきた父親と同じように、いつまでも技を磨いていきたいですね」と語ってくれました。

建 具は建物の機能や見た目に直接影響を与える重要なもので、「製造工程で気を抜ける部分は一つもありません」と語る野中さん。常に小さなところにもまで気を配ります。

ま た、「鹿沼は木材の切り出し場が近く、いい木材がすぐ手に入ります。材料を選び、加工まで一連の工程が鹿沼でできるからか、いい建具職人が多いように感じます」。

ます。その後、「木取り」で木材の厚み幅・長さを決め、加工します。「ホゾ加工」といわれる、ホゾ継ぎのための突起部分を作り、ホゾ穴を開け、この木材に「組手加工」を行い、格子を組み立て、最後に「鉋(かんな)を使って手触り良く滑らかに仕上げていきます」。

市民俳壇の選者として長年に渡り活躍された布川武男先生が、ご逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。今号からは、後任として駒場牧羊先生に引き継いでいただくこととなりました。

初ものの落味嗜友より頂きて七十五日生き延びらるる
下日向 市田 綾子
岩山を眺めて歩く田舎道空青々と岩に人影
日吉町 小川 豊治
冬晴れの高きを見れば何となく風に香あり春待つ真昼
寺町 石田 忠
まだまだと日記のごとく歌を詠み老いて人生面白きかな
上野町 榎木 和子

市民川柳

春ですよ心とタイヤ入れ替えて
上殿町 小暮 靖子
日本を腕組みさせる原油高
加園 池田 大
少子化で母校次々廃校に
上南摩町 酒井 道夫
りくりゅうの諦めないを実践す
坂田山四丁目 佐藤佳予子
銀メダルかざし氷の花の道
府所町 郡司 勝
縁側に「昼のいこい」が流れてる
塩山町 森野 静雄
泣き笑い苦楽を共に共白髪
玉田町 駒崎 明美
ガマくちに渋沢寄るもすぐ旅に
東町三丁目 松永 治子

松本とまと選

※選出の際に、選者による加筆・修正が入る場合があります。